

令和1(2019)年度事業報告書

(平成31(2019)年4月1日から令和2(2020)年3月31日まで)

一般財団法人 関西情報センター

目 次

一. 概 況	1
二. 総務事項	2
三. 事 業	5

1. 調査研究、普及・啓発事業

<情報化及び産業の活性化に関する調査研究事業>

- (1) AI・IoT 活用によるビジネスイノベーションに関する調査
- e-Kansai レポート - 5

<情報化及び産業の活性化に関する普及・啓発事業>

- (2) 持続可能な社会の実現にむけた IT の役割に関するシンポジウム
- インフォテック 2019 - 5
- (3) IT 戦略の再構築とビジネス・イノベーションに関するセミナー 6
- (4) 関西 CIO カンファレンス 10

2. ビジネス・政策支援事業

- (1) サイバーセキュリティ研究会 11
- (2) 破壊的イノベーションがもたらすデジタル社会研究会 15
- (3) スマートインフラセンサ利用研究会 17
- (4) AI（人工知能）活用研究会 20
- (5) 個人情報保護関連人材の育成 22
- (6) ICT ビジネスソリューションセミナー 22
- (7) 地方シンクタンク協議会 23
- (8) 災害情報共有システムの構築 24
- (9) 地区防災計画研究会 25
- (10) 地区防災計画策定支援業務 26
- (11) 大阪・関西万博関連業務 26
- (12) 国・自治体・企業等におけるプロジェクトの受託 27

3. 情報ネットワーク関連事業

- (1) インターネットサービス事業 31
- (2) 情報セキュリティシステム構築支援事業 32
- (3) ネットワーク基盤整備支援事業 32

- (4) システム開発受託事業 32
- (5) 公共施設情報システムサービス 32

4. 社会システム支援事業

<社会保健・福祉サービスソリューション>

- (1) 健康保険組合のシステム開発・運用事業 32
- (2) 健康管理ソリューションの開発・提供事業 32

5. 情報化社会基盤整備事業

- (1) プライバシーマークの審査、認定 32

6. 広報・交流活動事業

- (1) 機関誌「KIIS」の刊行 33
- (2) KIIS フォーラム 34
- (3) KIIS 設立 50 周年記念講演会及び新春交歓会 34
- (4) KIIS メールマガジン、ホームページ 35

一. 概 況

2019年度は、「サイバー犯罪・事故への対応」、「超高齢化社会への対応」、「大規模自然災害への備え」、「IoT/IoE時代、AI・ロボット等の技術の進歩への対応」、「大阪・関西万博開催への対応」を重点テーマとして、1. 調査研究、普及・啓発事業、2. ビジネス・政策支援事業、3. 情報ネットワーク関連事業、4. 社会システム支援事業、5. 情報化社会基盤整備事業を実施したが、3月以降の開催予定であった研究会やセミナー等については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、政府及び自治体の自粛要請等に従い開催延期もしくは開催中止とした。

1. 調査研究、普及・啓発事業

関西地域における情報化の動向を様々な角度から捉えた「e-Kansai レポート」では、経済産業省が推進する「デジタル経営改革のための評価指標」(DX 推進指標)と連携して、「DX 推進プラットフォームの形成に向けて」を主たるテーマとし調査を実施した。「インフォテック 2019」では、ヒューマン×デジタル・インタラクションが創る新たな未来～「豊かな生活」を実現するデジタルサービスの創出に向けて～をテーマにシンポジウムを開催した。また、「IT 戦略の再構築とビジネス・イノベーションに関するセミナー」においては、賛助会員やその他企業等への最新の IT 関連情報提供のため、各種セミナーを実施した。「関西 CIO カンファレンス」では、「AI が描くデジタルトランスフォーメーション(DX)の未来」をテーマに円卓会議を開催した。

2. ビジネス・政策支援事業

「サイバーセキュリティ研究会」では、サイバーセキュリティセミナー、セキュリティ人材育成プログラムやセキュリティ最新情報解説サロンなどの活動を行うと共に、経済産業省近畿経済産業局、総務省近畿総合通信局との協働により推進している関西サイバーセキュリティ・ネットワーク事業とも連携し活動を行った。「破壊的イノベーションがもたらすデジタル社会研究会」では予定を1年延長し、シンポジウムなどの活動を実施した。「スマートインフラセンサ利用研究会」は社会インフラの維持管理における予防保全・点検効率化を目指して、センサ活用やセンサデータの情報基盤づくりのための調査研究を行った。また、「AI(人工知能)活用研究会」は、関西の企業ビジネスにおける AI 利活用に必要なエントリーレベルの情報提供と、具体的な事業実装へ取り組むための情報を提供した。災害情報共有システムの構築では、システムを検討する「災害情報共有研究会」を開催した。大阪・関西万博関連業務では、2025年日本国際博覧会協会によるアイデア募集に対し、2件の提案をした。

3. 情報ネットワーク関連事業

インターネットサービス事業では健康・保健分野におけるホームページの構築やサーバーお預かりサービスの提供を継続して実施すると共に、情報セキュリティシステム構築支援事業(セキュアサポートサービス)において、企業の日常的な活動の中で利用しやすく、かつ安全性の保たれた情報の発信・交換を支援する WEB 系サービスを継続して提供した。また、公共施設情報システムサービス(OPAS/ESPAL)においては、ASP/SaaS 技術を活用した地方自治体のスポーツ施設・文化施設の予約サービスを継続して提供した。

4. 社会システム支援事業

マイナンバー制度に基づくサーバ間連携機能の運用支援を行うと共に、クラウド化の進展を見据えた新システム(HiPROS)への移行を完了した。また、健康管理ソリューションを構成するシステム(健康管理指導支援システム、生活習慣病リスクマーカーシステム、総合健康マネジメントシステム)の管理を継続して実施するとともに、国の成長戦略に基づく健保組合のデータヘルス計画支援等を目的とした総合健康マネジメントシステムの機能拡充と営業強化を実施した。

5. 情報化社会基盤整備事業

個人情報保護の推進を目的とし、継続してプライバシーマークの審査事業を実施し、個人情報の保護など情報化社会の基盤整備に貢献した。

二. 総務事項

1. 役員等の異動

当期における評議員の異動は、次のとおりである。

年月日	就任	退任
2019年6月19日	下村 匡	山元 康裕

当期における理事の異動は、次のとおりである。

年月日	就任	退任
2019年7月12日	橘高 淳	奈良橋 三郎

当期における監事の異動は、次のとおりである。

年月日	就任	退任
2019年9月10日	若林 厚仁	石川 智久

2. 賛助会員

賛助会員は、入会9社、退会10社となり、2019年度末会員数は、174社となった。

3. 評議員会

2019年4月11日 第17回臨時評議員(決議の省略の方法による)

決議事項 ・定款変更の件

2019年6月19日 第18回定時評議員会

決議事項 ・平成30年度計算書類等の承認の件

・基本財産の処分(売却)の件

・評議員1名選任の件

報告事項 ・平成30年度事業報告の件

・平成30年度公益目的支出計画実施報告書の件

・2019年度事業計画書について

・2019年度収支予算書について

2019年7月12日 第19回臨時評議員会(決議の省略の方法による)
決議事項 ・理事1名辞任につき1名選任の件

2019年9月10日 第20回臨時評議員会(決議の省略の方法による)
決議事項 ・監事1名辞任につき1名選任の件

4. 理事会

2019年5月30日 第35回定例理事会
決議事項 ・2018年度事業報告の承認の件
・2018年度計算書類等の承認の件
・2018年度公益目的支出計画実施報告書の承認の件
・基本財産の処分(売却)について
・定時評議員会招集の決定の件
報告事項 ・職務執行状況報告の件

2019年6月27日 第36回臨時理事会(決議の省略の方法による)
決議事項 ・評議員会の決議の省略についての決定の件
・理事1名選任につき、その候補者の決定の件
・事務局長任命の件

2019年8月27日 第37回臨時理事会(決議の省略の方法による)
決議事項 ・評議員会の決議の省略についての決定の件
・監事1名選任につき、その候補者の決定の件

2019年12月6日 第38回定例理事会
決議事項 ・2030年ビジョンについて
報告事項 ・職務執行状況報告の件

2020年3月26日 第39回臨時理事会(決議の省略の方法による)
決議事項 ・2020(令和2)年度事業計画承認の件
・2020(令和2)年度予算承認の件
・組織再編承認の件

5. 政策委員会

2019年11月26日 第84回委員会

講話 「経済産業省及び近畿経済産業局における Society5.0
及び IT 新戦略に関する取組」

経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部長

矢島 秀浩 氏

議事

- ・委員の交替について
- ・主要プロジェクトの現状報告
- ・今後の事業展開に関するアンケート調査の結果について
- ・2030年ビジョンについて
- ・KIIS 設立 50 周年記念講演会／新春合同交歓会のご案内

2020年3月19日 第83回委員会 【新型コロナウイルス感染予防のため延期】

6. 職員

職員1名増(派遣社員からの採用2名、退職1名)、出向者1名増(採用2名、退職1名)、その他職員3名増(派遣社員からの採用3名)の異動があり、2019年度末においては42名である。(2018年度末：37名(常用の有期雇用職員を含む))

三. 事 業

1. 調査研究、普及・啓発事業

<情報化及び産業の活性化に関する調査研究事業>

(1) AI・IoT 活用によるビジネスイノベーションに関する調査

－ e-Kansai レポート －

神戸大学・原田勉教授を主査とする「e-Kansai レポート」委員会を立ち上げ、9月13日に第1回委員会、2020年3月11日に第2回委員会、3月31日に第3回委員会を開催した。委員会での議論に基づき、本年度調査では、経済産業省が推進する「デジタル経営改革のための評価指標」(DX推進指標)と連携を行い、「DX推進プラットフォームの形成に向けて」を主たる調査テーマとし、アンケート及びヒアリング等を通して調査を推進した。「データ利活用状況及び今後の取り組みへの課題に関する調査」「企業のサイバーセキュリティ対策に関する調査」と題したアンケート調査を11月に実施し、関西地域を中心とする企業から383件の回答を得た。また、DXやAI・IoT・ビッグデータ利活用等で先進的な取り組みを進める企業や支援機関等へのヒアリング調査(15件)を推進した。調査結果を踏まえ、「e-Kansai レポート 2020」調査報告書を発行した。

<情報化及び産業の活性化に関する普及・啓発事業>

(2) 持続可能な社会の実現にむけた IT の役割に関するシンポジウム

－ インフォテック 2019 －

第1回企画運営委員会(運営委員長：西日本電信電話株式会社 理事 クラウドソリューション部長 西 裕士 氏)を5月23日に開催し、10月25日にインフォテック 2019をつぎの通り開催した。また、第3回企画運営委員会を2020年1月24日に開催し、インフォテック 2019の実施報告を行うとともに、インフォテック 2020のテーマについてご意見を頂いた。2020年度は、世界で発生している課題やニーズの解決に向け、新たなエコシステムから創造される未来社会を実現するための要素技術とビジネス化について、デジタルトランスフォーメーション(DX)、ニューロサイエンス(脳科学)、AI、IoT等を活用した事例を紹介し、参加企業、団体の今後の取り組みの参考となるよう講演およびパネルディスカッションを実施することにした。

日 時：2019年10月25日(金) 10:00～19:00

場 所：大阪国際会議場(グランキューブ大阪)12階 特別会議場

テーマ：ヒューマン×デジタル・インタラクションが創る新たな未来

～「豊かな生活」を実現するデジタルサービスの創出に向けて～

内 容：

来賓挨拶：経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部長 矢島 秀浩 氏

基調講演：「AI・ロボット時代の心のあり方と幸せ」

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授 前野 隆司 氏

特別講演：「AIを駆使してリアリティに迫る～新しい科学が拓く地平～」

国立研究開発法人理化学研究所

医科学イノベーションハブ推進プログラム 副プログラムディレクター

桜田 一洋 氏

招待講演1：「あらゆる制限を超えて75億人をつなぐ挑戦」

ANAホールディングス株式会社 アバター準備室 ディレクター 深堀 昂 氏

招待講演 2 : 「5G が切り開く未来」

株式会社 NTT ドコモ 5G イノベーション推進室 担当部長 奥村 幸彦 氏

招待講演 3 : 「人の愛する力をはぐくむ家族型ロボット「LOVOT[らぼっと]」

GROOVE X 株式会社 代表取締役 林 要 氏

オープンディスカッション :

【ファシリテータ】 大阪大学 理事・副学長 尾上 孝雄 氏

【パネリスト】

- ・ 国立研究開発法人理化学研究所 医科学イノベーション推進プログラム
副プログラムディレクター 桜田 一洋 氏
- ・ ANA ホールディングス株式会社 アバター準備室 ディレクター
深堀 昂 氏
- ・ 株式会社 NTT ドコモ 5G イノベーション推進室 担当部長 奥村 幸彦 氏
- ・ GROOVE X 株式会社 代表取締役 林 要 氏

参加者 : 241 名

(3) IT 戦略の再構築とビジネス・イノベーションに関するセミナー

賛助会員やその他企業等への最新の IT 関連情報提供のため、各種セミナーを実施した。

① ブロックチェーン・データ流通ビジネス関連

a) 大阪商工会議所との共催で「Blockchain Meetup in OSAKA～データ経済は民主化できるか?～」を開催した。

日 時 : 2019 年 4 月 11 日 (木) 16:00~20:00

場 所 : billage OSAKA (大阪会場)

Neutrino (東京サテライト会場)

内 容 : < 基調講演 >

「データは誰のものか——GDPR 以後のデータ民主化と自己主権経済」

武邑 光裕 氏 (メディア美学者、武邑塾塾長)

- ・ 世界一スタートアップが生まれるベルリンについての紹介
- ・ GDPR はなぜ生まれたのか? 欧州市民の個人データ価値は年間 1 兆ユーロ (126 兆円)
- ・ GDPR が牽引するデータ革命、フィンテック & API、分散元帳テクノロジー (DLT) の核心
- ・ DECODE (分散型市民所有データ・エコシステム) の挑戦
- ・ データ経済の民主化によって実現されるイノベーション

< 事例紹介 >

「電子国家エストニアと blockhive のブロックチェーンによる取り組み」

日下 光 氏 (blockhive OÜ Co-Founder)

Blockhive の紹介 (ILP の取り組み、Agrello へのアドバイス等)

エストニアで起業した理由、電子政府の実態

情報銀行とその発展に向けて必要な条件 (個人 ID 管理やビジネスモデル、法規制等)

< パネルディスカッション >

- ・ モデレータ 竹田 匡宏 氏 (株式会社幻冬舎 編集部)

- ・パネリスト 武邑 光裕 氏(メディア美学者、武邑塾塾長)
- 日下 光 氏(blockhive OÜ Co-Founder)

参加者：97名(大阪会場)
45名(東京サテライト会場)

関西におけるブロックチェーンコミュニティの形成やビジネス創出に資する活動として、大阪商工会議所、近畿大学と共催にてBlockchain×Tech Meetupをスタートした。

b)Blockchain X Tech Meetup in Osaka

主催：一般財団法人関西情報センター、大阪商工会議所、近畿大学

協力：株式会社Xtheta、Singularity HIVE

場所：技術入門編は近畿大学、技術基礎編/実装編はSingularity HIVE

内容：【技術入門編】

- ・第1回(5月22日)「仮想通貨『ビットコイン』の概要と利用体験」
参加者：33名
- ・第2回(5月29日)「仮想通貨『イーサリアム』の概要と利用体験」
参加者：28名
- ・第3回(6月5日)「スマートコントラクトの概要と利用体験」
参加者：29名

【技術基礎編】

- ・第1回(6月12日)「ブロックチェーンの基本構造」
参加者：30名
- ・第2回(6月19日)「ブロックチェーンの分散化とは？」
参加者：22名
- ・第3回(6月26日)「ブロックを固めるための合意形成手順」
参加者：20名

【実装編】

- ・(6月26日)スマートコントラクトの開発演習
参加者：19名

講師：近畿大学大学院 総合理工学研究科 准教授

森山 真光 氏

c)Blockchain Meetup in OSAKA 第2回「データ・エコシステムの創造に向けて」

日時：2019年8月2日(金) 16:00~20:30

場所：billage OSAKA

主催：一般財団法人関西情報センター、大阪商工会議所

後援：経済産業省近畿経済産業局、総務省近畿総合通信局

内容：ショートプレゼン①

「MyDataと目指すべき『情報銀行』の姿」

一般社団法人データ流通推進協議会 理事、一般社団法人MyDataJapan 理事
株式会社インテージ エバンジェリスト

伊藤 直之 氏

ショートプレゼン②

「エストニア流データ連携基盤の構築」

Planetway Corporation 代表取締役 CEO/ファウンダー

平尾 憲映 氏

ショートプレゼン③

「個人情報銀行の社会実装に向けて」

カウラ株式会社 代表取締役 CEO

岡本 克司 氏

パネルディスカッション

モデレーター：Collabogate OSAKA, IFA 株式会社取締役 CTO 四條 能伸 氏

パネリスト：伊藤 直之 氏、平尾 憲映 氏、岡本 克司 氏

参加者：80 名

d) Blockchain MeetUp in OSAKA 第 3 回「身近なユースケースを知る」

日 時：2020 年 1 月 14 日(火) 16:00～18:30

場 所：大阪イノベーションハブ

主 催：一般財団法人関西情報センター、大阪商工会議所、大阪イノベーションハブ

内 容：＜事例紹介 1＞

「HAPPY COINーコミュニケーションの可視化と価値化」

ナツメアタリ株式会社 新規事業推進室

山中 知幸 氏

＜事例紹介 2＞

「法律面からみた仮想通貨(暗号資産)の今」

弁護士法人淀屋橋・山上合同 弁護士

水井 大 氏

＜事例紹介 3＞

「TaaS (Traceability as a Service) がアップデートする

サプライチェーンの未来」

株式会社 CTIA 取締役 CTO

大田 真也 氏

＜事例紹介 4＞

「AI の学習履歴管理による社会利用促進」

沖電気工業株式会社 研究開発センター

小林 啓洋 氏

＜事例紹介 5＞

「Hyperledger プロジェクトの紹介」

Hyperledger Kansai オーガナイザー

Marc Shirmer 氏

＜ネットワークング＞

参加者：66 名

②サイバーセキュリティ関連

関連各団体との共催により、セキュアなソフトウェア開発をテーマとした無料セミナーをはじめ、金融機関や製造業、重要インフラ事業者、中小企業等を取り巻くサイバーリスクについて改めて把握し、適切な対策に取り組む上での方向性について議論するセミナーを企画し、つぎの通り実施した。

a) 安心・安全のソフトウェア創出社会に向けて

～セキュアなソフトウェア開発に関する指針と取り組み実態～

日 時：2019 年 7 月 16 日(火) 14:30～17:50

場 所：松下 IMP ビル 2 階 C 会議室

主 催：一般財団法人関西情報センター、Software ISAC

内 容：＜講演 1＞

「IoT 時代に潜むリスクと脆弱性管理の重要性～組織は脆弱性にどのように向き合うべきか、静寂にはしてられない脆弱性との向き合い方～」

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 Software ISAC リーダー
グローバルセキュリティエキスパート株式会社 CISO 萩原 健太 氏

<講演 2>

「ビジネス要求から逆算するセキュリティの取り組みのご紹介」

株式会社エフアンドエム 管理本部 情報セキュリティ部 課長代理 丁 亜峰 氏

<講演 3>

「IT 企業におけるセキュア開発 ～いかにして我々は取り組み始めたのか～」

株式会社神戸デジタル・ラボ デジタルビジネス本部

セキュア開発推進・プロジェクトサポートチーム リーダー 松田 康司 氏

<質疑応答・ディスカッション>

コーディネータ：神戸大学大学院 工学研究科 教授

森井 昌克 氏

<事業紹介>

一般財団法人関西情報センター、Software ISAC

参加者：30 名

b) サイバーセキュリティの現状：組織運営の観点から

日 時：2019 年 12 月 3 日(火) 14:00～17:30

場 所：ツイン 21 MID タワー 9 会議室

主 催：一般財団法人関西情報センター

内 容：<講演 1>

「サイバーセキュリティ対策の重要事項 実例の知見を踏まえて」

2019 年アジア・パシフィック情報セキュリティ・リーダーシップ・アワード (ISLA)

受賞者 米川 敦 氏

<講演 2>

「サイバー保険を活用した企業のリスクマネジメントとリスク可視化について」

東京海上日動火災株式会社 保険企業商品業務部 担当課長(商品開発担当)

(東京海上日動リスクコンサルティング株式会社

サイバーセキュリティラボ チーフコンサルタント) 教学 大介 氏

<講演 3>

「サイバーセキュリティの現状：マルウェア解析から」

神戸大学大学院 工学研究科 教授

森井 昌克 氏

<質疑応答・ディスカッション>

コーディネータ：神戸大学大学院 工学研究科 教授

森井 昌克 氏

<事業紹介>

参加者：74 名

③KIIS ビジネスフォーラム with 尼崎信用金庫

日 時：2020 年 2 月 3 日(月) 14:00～18:00

場 所：尼崎市中小企業センター 401 会議室

主 催：一般財団法人関西情報センター、尼崎信用金庫

内 容：<基調講演>

次世代ものづくりにおける産業ロボットの現状と今後の展望

川崎重工業株式会社 精密機械・ロボットカンパニー

ロボットビジネスセンター 営業企画部 部長

真田 知典 氏

<企業プレゼンテーション>

共栄制御機械株式会社、東洋理機工業株式会社、高丸工業株式会社

参加者：37名

④システムズエンジニアリングとアーキテクチャ

～グループ実践演習により深まる上流工程の理解～

日 時：2020年2月7日(金) 13:00～18:00

場 所：OBP アカデミア

主 催：一般財団法人関西情報センター

内 容：システムズエンジニアリング等に関する一般的解説

事例を用いた実践解説

具体的なシステムを提示しての演習

回答例解説

講 師：独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

中尾 昌善 氏、齊藤 善治 氏

参加者：25名

(4)関西 CIO カンファレンス

最新の CIO の役割の変化、関心のあるテーマ(デジタルトランスフォーメーション(DX)、AI 導入、サービスプラットフォーム、等)について Web 等を使って調査し、脳科学や AI(人工知能)に関する研究内容を基調講演に、また、業務のデジタル化に向けた CIO/CDO の業務/役割と、会社の組織改革への対応について円卓会議を新型コロナウイルス感染予防のため、観客を入れずインターネットを介したライブ配信をつぎの通り実施した。

日 時：2020年3月12日(木) 14:00～17:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

実施方法：YouTube を使ったライブ配信

■基調講演

「脳科学と AI が創るデジタルトランスフォーメーション(DX)の未来

～ニューロビジネスの最前線から～」

株式会社 NTT データ経営研究所 エグゼクティブオフィサー

応用脳科学コンソーシアム事務局長

横浜国立大学・客員教授 / 大阪大学・招へい教授

萩原 一平 氏

■円卓会議

「AI が描くデジタルトランスフォーメーション(DX)の未来」

コーディネータ：

株式会社 NTT データ経営研究所 エグゼクティブオフィサー

応用脳科学コンソーシアム事務局長

横浜国立大学・客員教授 / 大阪大学・招へい教授

萩原 一平 氏

スピーカー：

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT) 脳情報通信融合研究センター

脳情報工学研究室 室長

成瀬 康 氏

株式会社NTTデータ経営研究所 ニューロイノベーションユニット アソシエイトパートナー
茨木 拓也 氏
ダイキン工業株式会社 テクノロジー・イノベーションセンター 副センター長
河原 克己 氏
住友電気工業株式会社 執行役員・情報システム部長
橘高 淳 氏
視聴者：86名（再生回数170回、総再生時間126時間）

2. ビジネス・政策支援事業

(1) サイバーセキュリティ研究会

2018年度事業を踏襲し、研究会事業を開始した。企業におけるサイバーセキュリティ担当者のネットワーク・コミュニティ拡大を図る「セキュリティ最新情報解説サロン」、セキュリティ担当者や管理者等の技術・スキル向上を目的とした「セキュリティ人材育成プログラム」の各事業を企画・実施した。

本事業を積極的に展開することにより、経済産業省近畿経済産業局、総務省近畿総合通信局との協働により推進している関西サイバーセキュリティ・ネットワーク事業をはじめ、関連各省庁におけるサイバーセキュリティ施策等との連携がより深まっている。

■セキュリティ人材育成プログラム

企業等におけるセキュリティ担当人材、およびマネジメント人材の育成のため、必要なセキュリティ技術や制度等について学ぶ研修コースを推進するものである。企業におけるセキュリティ担当者向けコース、及びそれらを管理監督するマネジメント層向けのコースを準備し、セキュリティ人材育成プログラムを実施した。各回、専門の研究者やコンサルタント等を講師に招聘し、最新の情報セキュリティに関するさまざまなトピックスを講義＋ディスカッション（＋演習）の形で推進した。なお、本プログラムは、IT・データを中心とした将来の成長が強く見込まれ、雇用創出に貢献する分野において、社会人が高度な専門性を身に付けてキャリアアップを図る、専門的・実践的な教育訓練講座を経済産業大臣が認定する制度である「第四次産業革命スキル習得講座認定制度」、および厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」の認定を受けている。

【セキュリティ担当人材向けコース】（受講17名）

10月3日：サイバーセキュリティ人材育成とスキル (ISC)² 小熊 慶一郎 氏
10月10日：情報セキュリティの基本とリスクマネジメント
株式会社ラック 富田 一成 氏
10月18日：情報セキュリティの基本とリスクマネジメント【演習】
株式会社ラック 長谷川 長一 氏
10月23日：Webアプリケーション脆弱性診断ハンズオン
株式会社神戸デジタル・ラボ 田所 成久 氏
11月7日：Webアプリケーションの脅威と脆弱性
株式会社セキュアスカイ・テクノロジー はせがわ ようすけ 氏
11月12日：DFIR（デジタルフォレンジックとインシデントレスポンス）の入門と体験
株式会社神戸デジタル・ラボ マシス・ザッカーリー 氏
11月22日：サイバーセキュリティの管理と法 大阪経済大学 金子 啓子 氏

11月27日：暗号と認証(1) 神戸大学大学院 工学研究科 准教授 白石 善明 氏
12月18日：暗号と認証(2) 神戸大学大学院 工学研究科 准教授 白石 善明 氏
12月24日：情報セキュリティの運用と組織
NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 嶋倉 文裕 氏

【マネジメント人材向けコース】(受講 14名)

10月3日：サイバーセキュリティ人材育成とスキル (ISC)² 小熊 慶一郎 氏
10月10日：情報セキュリティの基本とリスクマネジメント
株式会社ラック 富田 一成 氏
10月18日：情報セキュリティの基本とリスクマネジメント【演習】
株式会社ラック 長谷川 長一 氏
10月30日：実リスク分析からの対策立案、予算化計画
株式会社神戸デジタル・ラボ 近藤 伸明 氏
11月7日：Webアプリケーションの脅威と脆弱性
株式会社セキュアスカイ・テクノロジー はせがわ ようすけ 氏
11月13日：サイバーセキュリティ技術概論
神戸大学大学院 工学研究科 教授 森井 昌克 氏
11月22日：サイバーセキュリティの管理と法 大阪経済大学 金子 啓子 氏
11月28日：情報セキュリティの運用と組織
NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 嶋倉 文裕 氏
12月5日：情報セキュリティの運用と組織【演習】 株式会社ラック 長谷川 長一 氏
12月12日：CSIRT 構築・運用
一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター 洞田 慎一 氏

■セキュリティ最新情報解説サロン

第一線のコンサルタント、ホワイトハッカー等セキュリティ専門家を招聘し、最新の技術動向や事故事例等に関する解説を行うクローズドなサロン活動をつぎの通り実施した。なお、第18回サロン(特別編)は、新型コロナウイルス感染予防のため開催を中止した。

通算第14回サロン

日 時：2019年5月20日(月) 17:00～20:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

テーマ：混沌とするサイバーセキュリティ対策の現状と対策の本質

株式会社 FFRI 代表取締役社長 鶴飼 裕司 氏

通算第15回サロン

日 時：2019年7月1日(月) 17:00～20:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

テーマ：モノづくりとコトづくりの融合

～コネクテッドカー&自動運転をセキュリティ視点とビジネス視点で考える～

合同会社 White Motion 最高経営責任者 蔵本 雄一 氏

通算第16回サロン

日 時：2019年9月11日(水) 17:00～20:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

テーマ：フェイクニュース対策は誰がする？

通算第 17 回サロン

日 時：2019 年 11 月 29 日(金) 17:00～20:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

テーマ：安心・安全な Society5.0 の実現に向けて

～プライバシー保護データ解析技術の現在～

国立研究開発法人情報通信研究機構 経営企画部 企画戦略室長

サイバーセキュリティ研究所 上席研究員 盛合 志帆 氏

通算第 18 回サロン(特別編)【新型コロナウイルス感染予防のため開催中止】

日 時：2020 年 3 月 24 日(火) 13:00～20:00

場 所：①民間セキュリティオペレーションセンター、②セキュリティ関連研究機関

テーマ：最新セキュリティ施設見学会

■関西サイバーセキュリティ・ネットワーク

「関西サイバーセキュリティ・ネットワーク」は、産学官等が連携し、関西におけるサイバーセキュリティの重要性についての認識の醸成を図るとともに、サイバーセキュリティの向上に資する人材の発掘・育成の円滑化や情報交換を進めることを目的に発足した。本ネットワークの共同事務局である総務省近畿総合通信局、経済産業省近畿経済産業局等とともに、中小企業等を対象とした「業種横断的セキュリティ戦略セミナー」やセキュリティ人材育成をテーマとした「サイバーセキュリティフォーラム」等を企画・実施した。また、企業でサイバーセキュリティをこれから担う担当者等を対象とした「サイバーセキュリティ・リレー講座」や「サイバーセキュリティソリューション地域別講座(京阪神地区)」等も合わせて企画・実施した(詳細は下記「関西 IoT イノベーション創出支援事業(近畿経済産業局委託事業)」にて記載)。これ以外に、福井地域での初の大規模サイバーセキュリティフォーラムを企画したが、新型コロナウイルス感染予防のため開催中止となった。また、その他関連各省庁におけるサイバーセキュリティ普及啓発施策等と随時連携し、関西地域での事業展開について、つぎの通り企画を推進した。

(a) 中小企業等向け「業種横断的」セキュリティ戦略セミナー

ーユーザー企業から見たセキュリティ対策の「はじめの一步」とは?ー

セキュリティ対策を実施しているユーザー企業(通信事業、放送事業、製造事業、サービス事業)の担当者をパネリストとして、ユーザー企業の視点から見たセキュリティ対策のアプローチ方法、悩み、課題などを語るパネルディスカッションを実施した。

日 時：2020 年 1 月 31 日(金) 15:00～17:30

場 所：大阪商工会議所 502 号室

内 容：モデレーターによる講演

セキュリティ分野における中小企業等を取り巻く環境について

モデレーター：グローバルセキュリティエキスパート株式会社

西日本支社 支社長

三木 剛 氏

パネルディスカッション

パネリスト

[通信事業] スターネット株式会社 営業本部 大阪営業部 次長

兼 第 2 グループ 統括シニアマネジャー 山本 幸稔 氏

[放送事業] 株式会社ベイ・コミュニケーションズ

経営企画室総務チーム シニアリーダー 栗原 潤一 氏

[製造事業] 宇都宮製作株式会社 執行役員/管理事業部部長 兼 品質管理 G 課長

馬場 良治 氏

[インターネットサービス事業] 有限会社ねっと屋 代表取締役 細川 豊彦 氏

モデレーターによるパネルディスカッションまとめ、講評

関係機関の取組紹介

参加者：36名

(b) サイバーセキュリティフォーラム in 大阪

ーセキュリティ人材育成とセキュリティ対策の「はじめの一步」を知るー

関西におけるサイバーセキュリティ人材育成の最新の取組について理解を深めるための「情報セキュリティ&危機管理セミナー」及びユーザー企業目線でのセキュリティ対策の課題や悩みを共有する「中小企業等向け『業種横断的』セキュリティ戦略セミナー」を同日に開催した。

日 時：2020年2月25日(火) 13:30～17:15

場 所：関西大学梅田キャンパス 8階大ホール

① 情報セキュリティ&危機管理セミナー

主 催：近畿総合通信局、近畿経済産業局、一般財団法人関西情報センター、一般社団法人テレコムサービス協会近畿支部、近畿情報通信協議会

内 容：企業や地方公共団体等のセキュリティ担当者等を対象に、地域におけるサイバーセキュリティの取組の現状や関係機関が関西において実施する人材育成プログラムの紹介等を行った。

講演1 「サイバーセキュリティにおける人材育成の現状について」

総務省 サイバーセキュリティ統括官室 参事官 赤阪 晋介 氏

講演2 「大阪商工会議所におけるサイバー攻撃対策支援の取り組みについて」

大阪商工会議所 経営情報センター 課長 古川 佳和 氏

講演3 「関西におけるサイバーセキュリティ人材育成の取組について」

関西サイバーセキュリティ・ネットワーク事務局

一般財団法人関西情報センター 事業推進グループ マネジャー

石橋 裕基

講演4 「セキュリティ人材育成の最前線」

国立研究開発法人情報通信研究機構

ナショナルサイバートレーニングセンター

サイバートレーニング研究室 室長 衛藤 将史 氏

② 中小企業等向け「業種横断的」セキュリティ戦略セミナー

～ユーザー企業から見たセキュリティ対策の「はじめの一步」とは～

「セキュリティ対策は重要だと分かっているがまず何を始めたらよいか分からない」、「限られた人材やコストでどのようにセキュリティ対策を講じればよいのか」等の課題を持つ中小企業等を対象に、セキュリティ対策を実施しているユーザー企業(通信事業、放送事業、建材事業)の担当者をパネリストとして、ユーザー企業の視点から見たセキュリティ対策のアプローチ方法、悩み、課題などを語るパネルディスカッションを行った。

主 催：関西サイバーセキュリティ・ネットワーク事務局
(近畿総合通信局、近畿経済産業局、一般財団法人関西情報センター)

共 催：大阪商工会議所

内 容：モデレーターによる講演
「セキュリティ分野における中小企業等を取り巻く環境について」
モデレーター
みゆーらぼ 代表/セキュリティ・アドバイザー 平田 真由美 氏
国立研究開発法人情報通信研究機構
ナショナルサイバートレーニングセンター
サイバートレーニング研究室 研究員 佐藤 公信 氏
パネルディスカッション
パネリスト
[通信事業]協和テクノロジーズ株式会社 代表取締役/CEO 兼 CIO 十河 元太郎 氏
[放送事業]株式会社ジェイコムウエスト 商品・技術統括部長 鮎川 義正 氏
[建材事業]太平洋建材株式会社 管理部 情報戦略室 主任
情報システム責任者 北村 俊和 氏
パネルディスカッションまとめ、講評、関係機関の取組紹介

参加者：95名

(c) 他省庁関連事業への協力

- ・厚生労働省平成31年度教育訓練プログラム開発事業(1年開発コース)
「IT/IoTセキュリティ人材育成プログラムの開発」(受託事業者：日本電気株式会社)
への協力
IT/IoT利用とそのリスクを理解し、各産業分野の特徴を理解した設計・構築・運用のセキュリティ対策が行える人材を育成するための教育プログラム・コンテンツを開発し、キャリアアップを目指すリカレント人材が最新かつ実践的な知識・技術を習得できる教育訓練プログラムを開発する実証事業に協力した。
- ・総務省セキュリティ人材シェアリングモデル事業(受託事業者：グローバルセキュリティエキスパート株式会社)への協力
関西地域で活躍するサイバーセキュリティ専門家をシェアする仕組みを構築する実証事業に協力した。利用者は人材シェアリングシステムに登録されているセキュリティ専門家を検索し、自社に最適な人材を選ぶことができる。アドバイザリを気軽に、費用負担なしで受けることができるもの。

(2) 破壊的イノベーションがもたらすデジタル社会研究会

今年度は予定を1年延長し、3年目(最終年度)の活動を開始。座長は昨年度に引き続き神戸大学塚本先生に委嘱。また、5月30日に今年度第1回目(通算12回目)の研究会を実施し、6月6日に昨年度報告書をベースとした中間報告シンポジウムをつぎの通り開催した。

日 時：2019年6月6日(木) 14:00~17:20

場 所：ツイン21 MIDタワー 8会議室

内 容：基調講演

「2030年の未来社会～明るい未来ありたい未来像～」

神戸大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 教授
破壊的イノベーションがもたらすデジタル社会研究会 座長 塚本 昌彦 氏
パネルディスカッション

「2030年の未来社会と、そこに暮らす人々の生活」
モデレータ (神戸大学大学院 教授、本研究会座長) 塚本 昌彦 氏
パネリスト (パナソニック株式会社) 青木 一将 氏
(株式会社 NTT ドコモ) 篠原 隆史 氏
(住友電気工業株式会社) 細木原 昭聡 氏
(大阪ガス株式会社) 川下 翔平 氏
(一般財団法人関西情報センター) 長尾 卓範

招待講演

「未来を創るイノベーション事業化への挑戦」
株式会社 Shiftall 代表取締役 CEO 岩佐 琢磨 氏

参加者 : 57 名

また、つぎの通り研究会において議論を継続し、今年度は 2025 年の大阪・関西万博を契機とした未来社会のイメージを先取りし提示するため、2030 年未来社会の個別テーマの深堀を行い、年度末に最終報告書を取りまとめるとともに、2019 年重要ワードの発表を行った。

第 13 回研究会 (2019 年 9 月 14 日 於:大阪ガス株式会社)

- ・重要ワード選定に関する議論

第 14 回研究会 (2019 年 11 月 7 日 於:一般財団法人関西情報センター)

- ・重要ワード選定

第 15 回研究会 (2019 年 12 月 2 日 於:一般財団法人関西情報センター)

- ・重要ワードランキングプレスリリースに向けた議論
- ・個別テーマレポートの方向性についての議論

第 16 回研究会 (2020 年 1 月 22 日 於:住友電気工業株式会社)

- ・個別テーマレポート各担当テーマについての議論

第 17 回研究会【新型コロナウイルス感染予防のため中止】

- ・オンラインベースのコミュニケーションで執筆等の作業は継続。

■重要ワード 2019

- ・IT 系、一般系それぞれで重要ワードを公表。
- ・PR TIMES においてプレスリリースを実施。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000052382.html>
- ・IT 系重要ワード、一般系重要ワード Top5 は以下の通り

順位	IT 系	一般系
1 位	HUAWEI	あおり運転
2 位	サウジ油田 ドローン攻撃	令和
3 位	キャッシュレス	首里城焼失
4 位	ヤフーLINE 経営統合	あいちトリエンナーレ・表現の不自由展
5 位	ZOZO	ラグビーW 杯

詳細は研究会 WEB ページに公開し、閲覧可能とした。

<http://www.kiis.or.jp/digitalsociety/images/portfolio/2019word.pdf>

■未来社会イメージ

昨年度検討した 2030 年の未来社会のイメージをベースに、2030 年度以降の未来社会イメージについて、担当ごとに個別テーマ（買い物、移動・旅行、健康・ライフサイエンス、娯楽・スポーツ、家事、街・住空間）を設定し執筆を行い、最終報告書として取りまとめた。

(3)スマートインフラセンサ利用研究会

橋梁などの社会インフラの老朽化が進行し、予防保全・維持管理費の削減が日本の重要課題となっている。その解決策として、2014 年度から土木構造物に IoT センサを設置し、構造物の健全性のモニタリングや、取得したセンサデータ等の活用を可能とする基盤の検討及び使用される IoT センサのコード管理センサ等の構築について研究を行ってきた。

今年度は、スマートインフラセンサ IoT プラットフォームの研究をワーキンググループ(以下「WG」)及び小委員会にて実施した。センサポータルサイトのプロトタイプを作成中で、施設管理者と試行の検討を始めた。

WG1：センサの種類、特徴等を管理するための「センサコード付与方法及びセンサから出力されるデータモデルの標準化の検討・試行を行った。特にオープンデータ化による地方自治体のインフラ維持管理の効率化及び AI 活用の基盤の検討を行い、国の社会基盤情報標準化委員会(事務局：一般財団法人日本建設情報総合センター(JACIC))へ提案し、採択され、活動を開始した。また、一昨年度から総務省のインフラモニタリングタスクフォースへ、本研究会活動の紹介及び標準化のための提案を行った。

WG2：「センサコード管理センター(仮)」を核としたセンサポータルサイト、センサコード管理の運営化を進める。土木学会の旧センサ利用技術小委員会の主要メンバとのアドバイザリボードで運用準備について継続し検討を進めた。

WG3：センサの高度活用・実用化や AI を活用した維持管理等の先進事例の調査・研究や実証実験を実施した。また、一般財団法人日本建設情報センター(JACIC)研究助成に採択された「構造物診断のための IoT 最先端通信技術(LPWA)導入に向けた調査研究」の成果を 2019 年度土木学会全国大会(9 月 3 日～4 日)において発表した。

第 1 回先端センサ・シンポジウム(7 月 24 日～25 日)の社会インフラセッションで研究会活動について講演を行った。また、つぎの通り関連活動に参加した。

- ・スマート IoT 推進フォーラム技術・標準分科会インフラモニタリングタスクフォース(総務省)

- 第 15 回(2020 年 1 月 21 日)、第 16 回(2020 年 3 月 24 日)／小委員会活動の紹介

- ・土木学会土木情報学委員会河川・港湾維持管理研究小委員会

- 第 7 回(2019 年 12 月 16 日)

- 同小委員会維持管理システム技術に関する分科会

- 第 3 回(2020 年 1 月 21 日)、第 4 回(2020 年 2 月 14 日)報告書執筆分担

なお、研究会の参加メンバは、現在 31 団体(発足当初 16 団体)まで増えた。

■第 1 回研究会

日 時：2019 年 7 月 3 日(水) 15:00～17:15

場 所：松下 IMP ビル 2 階 C 会議室

内 容：(ゲストによる関連活動のご紹介)1

「インフラ維持管理・更新等の社会課題対応システム開発

プロジェクト～インフラモニタリング技術およびロボット技術～」

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

ロボット・AI部 主査 プロジェクトマネージャー

安川 裕介 氏

(ゲストによる関連活動のご紹介)2

「大阪市の橋梁維持管理について」

大阪市 建設局 道路部 橋梁課 担当係長

永橋 俊二 氏

事務局：WG 活動状況

WG1:コード・データベースモデルとメリット実証

①データモデル作成とクエリ実行

②公募申請(社会基盤情報標準化委員会)

③インフラモニタリング-TF 連絡

④先端センサ・シンポジウム&センサソリューション展 2019 報告

WG2:センサ種別データベース構築、土木学会連携のアドバイザーボード

WG3:新センサ開発・AI活用維持管理、公募申請(JACIC 研究助成)

■第2回研究会

日 時：2019年10月4日(金) 15:15～17:15

場 所：クリスタルタワー20階 E会議室

内 容：(ゲストによる関連活動のご紹介)1

「非破壊検査手法(AE法)を活用した橋梁健全性評価技術の開発」

株式会社東芝 研究開発本部 研究開発センター

機械・システムラボラトリー 研究主幹

渡部 一雄 氏

(ゲストによる関連活動のご紹介)2

「災害調査用地上/空中複合型ロボットシステム」

株式会社日立製作所 ディフェンスビジネスユニット

情報システム本部 社会インフラ事業推進部

谷村 和彦 氏

事務局：WG 活動状況

スマートインフラセンサのコード化・データベース標準化検討小委員(WG1)

第1回報告 (社会基盤情報標準化委員会)

WG3:新センサ開発・AI活用インフラ維持管理

シーズ紹介、公募申請結果(JACIC 研究助成)

■WG1:コード・データベースモデルとメリット実証

(第1回)日 時：2019年6月4日(月) 15:00～17:00

場 所：大阪大学 矢吹研究室(吹田キャンパス)M3棟4F

■小委員会：スマートインフラセンサのコード化・データベース標準化検討小委員

(第1回)日 時：2019年9月19日(木) 13:00～15:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：小委員会検討テーマ紹介(五十嵐小委員長)

情報提供(東京大学大学院特任教授 石川雄章氏)

(第2回)日 時：2019年11月21日(木) 14:00～16:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容： アンケート集約結果、センサコード仕様案、データモデル検討状況

■WG2：センサポータル構築

(第1回)日 時：2019年7月8日(月) 11:00～12:00

場 所：清水建設株式会社 本社 4F 会議室

■WG3：新センサ開発・AI活用維持管理

(第1回)日 時：2019年7月3日(水) 13:30～15:00

場 所：松下 IMP ビル2階 C会議室

シーズ提供：4D センサー株式会社

情報提供：JACIC 助成研究申請内容紹介(大阪大学大学院助教 小泉圭吾氏)

(第2回)日 時：2019年10月4日(金) 13:45～15:00

場 所：クリスタルタワー20階 E会議室

シーズ提供：伊藤電機株式会社

情報提供：「橋梁プロダクトモデルとセンサ情報の連携に関する基礎的検討」
(大阪大学矢吹研究室)

■第3回研究会

日 時：2020年12月17日(水) 15:15～17:15

場 所：クリスタルタワー20階 F会議室

内 容：(ゲストによる関連活動のご紹介)1

「土木構造物のためのモニタリングシステム活用ガイドライン(案)の要点」

東日本高速道路株式会社 技術本部 技術・環境部 構造物専門役 本間 淳史 氏

(ゲストによる関連活動のご紹介)2

「IFCによる3Dプロダクトモデルの表現とbSJの活動」

株式会社コンポート 代表取締役

有賀 貴志 氏

事務局：ワーキンググループ活動状況報告

スマートインフラセンサのコード化・データベース標準化検討小委員

WG1：第2回報告(社会基盤情報標準化委員会)

関連活動(インフラモニタリング-TF 他)

WG2：土木学会連携のアドバイザーボード

WG3：研究会活動

■第4回研究会【新型コロナウイルス感染予防のため延期】

日 時：2020年3月5日(木) 15:15～17:15

場 所：クリスタルタワー20階 E会議室

内 容：(メンバによる関連活動のご紹介)

「映像認識AIとデジタルツインを用いた施工改善支援システム」

株式会社奥村組 土木本部 土木部 i-Construction 推進グループ 宮田 岩往 氏

「[Society5.0]実現に向けた NEC のスマートシティの取り組みデータ利活用基盤

FIWARE について」

日本電気株式会社 クロスインダストリーユニット 主席事業主幹 飯塚 光正 氏

事務局：WG 活動状況

スマートインフラセンサのコード化・データベース標準化検討小委員

WG1：第3回報告(社会基盤情報標準化委員会)

関連活動(インフラモニタリング-TF 他)

WG2：土木学会連携のアドバイザリボード

WG3：研究会活動

■小委員会：スマートインフラセンサのコード化・データベース標準化検討小委員(第3回)

日 時：2020年2月14日(金) 15:00～17:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：ユースケースとセンサコード案(見直案)

IFCデータモデルと整合したデータベース仕様案(素案)

「インフラ管理情報コンソーシアム」の紹介

■WG3：新センサ開発・AI活用維持管理

(第3回) 日 時：2019年12月17日(火) 13:45～15:00

場 所：クリスタルタワー20階 F会議室

シーズ提供：JIPテクノサイエンス株式会社

『スマートフォンを用いた路面性状把握システムおよび橋梁
モニタリング技術』

アルプスアルパイン株式会社

『アルプスアルパインのインフラ市場への取り組み』

(第4回) 【新型コロナウイルス感染予防のため延期】

日 時：2020年3月5日(木) 13:45～15:00

場 所：クリスタルタワー20階 E会議室

シーズ提供：国際航業株式会社

『非破壊センサ(画像センサ)』(仮)

京都情報大学院大学

『GPSを用いた高精度測位技術(RTK)の紹介』

(4) AI(人工知能)活用研究会

世界的にAIの技術およびビジネス化が急速に進展している中で、我が国においても企業におけるデータ分析や人工知能(AI)利活用事例が現れつつある。一方、中小企業など、未だ自社での課題解決に向けた具体的なアクションを起こせずにいる企業も多い。本研究会では、関西の企業ビジネスにおけるAI利活用に必要な知識や技術についてエントリーレベルの情報提供を行い、各社が今後より詳細かつ具体的な取り組みへとステップアップしていくための契機としてリレーセミナーを企画した。昨年度に続き、兵庫県立大学他の連携協力を得て、企業ビジネスにおけるAI利活用に必要な知識や技術についてエントリーレベルの情報提供の基礎編と、各社が具体的な事業実装へ取り組むための事例紹介型の実践編として実施した。なお、企業実践編については強化を行って、昨年度より回数を1回増やし計10回としたが、最終第10回は新型コロナウイルス感染予防のため開催延期となった。参加申込者は17名。

■第1回

日 時：2020年1月10日(金) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「機械学習の基礎とPythonハンズオンの準備」

兵庫県立大学 准教授

大島 裕明 氏

参加者：16名

■第2回

日 時：2020年1月15日(水) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「データ分析のためのデータハンドリングと特徴エンジニアリング」

学習院大学 教授

久保山 哲二 氏

参加者：16名

■第3回

日 時：2020年1月21日(水) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「機械学習によるテキスト分析」

兵庫県立大学 助教

湯本 高行 氏

参加者：16名

■第4回

日 時：2020年1月24日(月) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「ニューラルコンピューティングとディープラーニングの基礎」

学習院大学 教授

申 吉浩 氏

参加者：11名

■第5回

日 時：2020年2月4日(火) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「機械学習を用いた画像・映像解析」

兵庫県立大学 教授

川嶋 宏彰 氏

参加者：16名

■第6回

日 時：2020年2月10日(月) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「機械学習を用いた情報検索と情報推薦」

兵庫県立大学 准教授

山本 岳洋 氏

参加者：14名

■第7回

日 時：2020年2月17日(月) 15:30～18:30

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「時系列 SNS 分析への応用」

千葉商科大学 教授

橋本 隆子 氏

参加者：16名

■第8回

日 時：2020年2月20日(木) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「AI のサイバーセキュリティ応用」

兵庫県立大学 准教授

五十部 孝典 氏

参加者：15名

■第9回

日 時：2020年2月27日(木) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「ビジネスへのAI応用とアイデア策定～AI社会実装の勘どころ～」

株式会社 ABEJA

木下 正文 氏

参加者：14名

■第10回【新型コロナウイルス感染予防のため開催延期】

日 時：2020年3月10日(火) 15:00～18:00

場 所：一般財団法人関西情報センター

内 容：「実データを使ったデータ分析演習」

株式会社 eftax 代表取締役

中井 友昭 氏

(5) 個人情報保護関連人材の育成

個人情報保護の普及啓発と質の高い審査員養成を目指し、一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)のプライバシーマーク指定研修機関として認定を受け、プライバシーマーク審査員研修を実施しており、審査員補の養成研修を4月26日～30日の5日間で開催し、10名の参加を得た。また、フォローアップ研修は5月28日(大阪、33名受講)、6月12日(大阪、38名受講)、6月8日(広島、17名受講)、7月19日(熊本、25名受講)、11月6日(広島、11名受講)、11月14日(大阪、20名受講)にて開催した。

(6) ICT ビジネスソリューションセミナー

最新の情報通信技術をテーマとして、賛助会員企業の協賛を得てセミナーを開催した。

■日本電気株式会社の協賛により、つぎの通り開催した。

テーマ：行政情報化の最新動向セミナー

～地方公共団体におけるデジタル・ガバメント推進に向けて～

日 時：2019年7月12日(金) 13:30～16:00

場 所：グランフロント大阪北館タワーC 8階 RoomC01+C02

主 催：一般財団法人関西情報センター

協 賛：日本電気株式会社

内 容：(基調講演)

「政府から地方公共団体へ、デジタル・ガバメント推進に向けての今後の展望」

内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室 政府CIO 補佐官

長谷川 和人 氏

(事例講演)

「加古川市によるスマートシティ先進事例と今後のデジタル・ガバメント推進に関するご紹介」

加古川市 企画部情報政策課 副課長

多田 功 氏

(一般講演)

「NECのデジタル・ガバメントへの取り組み状況とソリューションについて」

日本電気株式会社 デジタル・ガバメント推進本部長

小松 正人 氏

参加団体/参加者：35自治体/48名

■一般社団法人 iCD 協会の協賛により、経営者向けセミナーをつぎの通り開催した。

テーマ：デジタルトランスフォーメーションを実現するために ～iCDによる経営改革の
すすめ～

日時：2019年10月9日(火) 14:00～17:00

場所：一般財団法人関西情報センター

主催：一般財団法人関西情報センター

協賛：一般社団法人 iCD 協会

内容：(基調講演)

「デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進に向けて」

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 課長補佐

飛世 昌昭 氏

(事例講演)

「これで解決！人材強化の最強ソリューション

～i コンピテシディクシヨナリの活用」

一般社団法人 iCD 協会 常任理事

遠藤 修 氏

(一般講演)

「iCD活用企業による事例紹介」

MUS 情報システム株式会社 企画管理グループ 人事部 採用育成課長 宮内 克爾 氏

参加者：26名

■株式会社クニエ、NTT データ先端技術株式会社の協賛により、次の通り開催した。

テーマ：DX 推進によるビジネス変革に向けて

～「2025年の崖」を克服するデジタル戦略とセキュリティガバナンス～

日時：2020年2月26日(水) 14:00～17:00

場所：グランフロント大阪北館タワーC 8階 RoomC02

主催：一般財団法人関西情報センター

協賛：株式会社クニエ、NTT データ先端技術株式会社

内容：(基調講演)

「DXによるビジネス変革の可能性と IT システムに関する現状の課題」

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課

ソフトウェア・情報サービス戦略室長

田辺 雄史 氏

(講演)

「PoCの後を見据えたDXプロジェクトの事例と勘所」

株式会社クニエ マネージャー

北村 卓也 氏

株式会社クニエ シニアテクノロジーアーキテクト

小沢 拓也 氏

「デジタル時代に求められる IT ガバナンスと情報セキュリティ」

NTT データ先端技術株式会社 相談役、最高技術顧問

三宅 功 氏

(事業紹介、サービス紹介)

株式会社クニエ、NTT データ先端技術株式会社、一般財団法人関西情報センター

参加者：41名

(7)地方シンクタンク協議会

全国のシンクタンク(57機関)で組織する地方シンクタンク協議会の運営に関し、事務局として各種交流活動等の事業を円滑に遂行するとともに、地域からの情報発信や地域間交流の促進を図

っており、4月19日に幹事会(於:KIIS)を開催し、総会・経営者会議(於:アクロス福岡)を7月5日に開催した。また、論文アワード2019を実施し、今年度も総務省より総務大臣賞の認可を得て、厳正なる審査の結果、総務大臣賞1件、優秀賞2件、特別賞1件を選定し、第32回地方シンクタンクフォーラムをつぎの通り開催した。

テーマ:「魅力ある地域づくり～スマートなまちへの取組から」

日時:2019年11月29日(金) 13:00～17:00

場所:ラッセホール「リリー」

主催:地方シンクタンク協議会

内容:(情報提供)

「地方創生をめぐる状況」

内閣府 地方創生推進事務局 参事官

得田 啓史 氏

(総務大臣賞『論文アワード2019』表彰式)

(基調講演)

「シティプロモーションによる魅力ある地域づくり」

東海大学 文化社会学部 広報メディア学科 教授

河井 孝仁 氏

(パネルディスカッション)

「魅力ある地域づくり～スマートなまちへの取組から」

コーディネータ:

東海大学 文化社会学部 広報メディア学科 教授

河井 孝仁 氏

パネリスト:

神戸市 企画調整局 ICT 連携担当部長

松崎 太亮 氏

株式会社地域計画建築研究所 副社長

中塚 一 氏

参加者:70名

(8)災害情報共有システムの構築

災害情報共有システムは、大規模災害発災直後に、一刻でも早い企業活動の復旧活動に向けて、被災状況の情報を収集、共有することを目的としている。

昨年度から行ってきたヒアリングによって、大規模災害発災直後に必要な情報は、被災状況の概要や、インフラ関連の企業では復旧活動に必要な道路情報などであることが明らかになった。これらの情報を企業の共助で収集、共有するための災害情報共有システムを検討する「災害情報共有研究会」(座長:京都大学防災研究所 畑山教授)を2019年3月にスタートさせ、つぎの通り研究会を開催した。なお、第6回は2020年3月30日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため開催を中止した。

■特別研究会

日時:2019年4月17日(金) 15:00～17:00

場所:一般財団法人関西情報センター

講演:「SIP4D(基盤的防災情報流通ネットワーク)について」

国立研究開発法人防災科学技術研究所社会防災システム研究部門

レジリエント防災・減災研究推進センター 主幹研究員

花島 誠人 氏

■第2回研究会

日時:2019年7月23日(火) 14:00～17:00

場所:一般財団法人関西情報センター

講演：「空中写真の災害利用」

中部大学 中部高等学術研究所 国際 GIS センター教授

杉田 暁准 氏

「無電柱化等、道路に関する最近の動向について」

国土交通省 近畿地方整備局 道路企画官

竹内 勇喜 氏

■第3回研究会

日時：2019年9月30日(月)14:00～17:00

場所：一般財団法人関西情報センター

講演：「防災情報の概要について」

国土交通省 近畿地方整備局 総括防災調整官 栗津 誠一 氏

検討：「民間事業者の発災後の復旧計画策定に必要な情報(時系列的整理)について」

■第4回研究会

日時：2019年11月26日(火)14:00～17:00

場所：松下 IMP ビル会議室

講演：「東日本大震災等をふまえた災害対応時の連携のあり方について」

東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部 担当部長 笹倉 聡 氏

「発災後道路情報収集と発信 ～兵庫県道路総合管理システムについて～」

兵庫県 県土整備部 土木局 道路保全課 副課長

菅野 長久 氏

■第5回研究会

日時：2020年1月23日(木) 14:00～17:00

場所：松下 IMP ビル会議室

議事：「万博 PLL への提案内容について」

(9)地区防災計画研究会

小学校区程度の地区レベルでの防災計画を住民主体で策定する地区防災計画制度が2014年にスタートした。本制度の普及を図るために、2019年度から「地区防災計画研究会」(座長：兵庫県立大学 澤田准教授)を、つぎの通り開催した。

■第1回研究会

日時：2019年7月31日(水) 15:00～17:30

場所：一般財団法人関西情報センター

テーマ：「行政から見た地区防災計画の支援策について(予算化など)」

講演：「大阪府池田土木事務所における地域防災力向上の取組」

大阪府 池田事務所

「堺市における地区防災計画の支援について」

堺市 危機管理課

「宝塚市地区防災計画活動推進補助金について」

宝塚市 都市安全部

「自分たちのまちは自分たちで守る～地区防災計画～」

宝塚市 防災士 細川 知子 氏

■第2回研究会

日時：2019年10月31日(木) 15:00～17:30

場所：一般財団法人関西情報センター

情報提供：「長野市長沼地区の地区防災計画策定について」

一般財団法人関西情報センター 主席研究員

西田 佳弘

テーマ：「地区防災計画の作り方(プロセス)」

事例：「草津市老上西学区の地区防災計画策定について」

老上西学区まちづくり協議会 事務局長 兼 老上西まちづくりセンター長

若山 康弘 氏

「吹田市芳野町と吹田支援学校の地区防災計画策定について」

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科博士 後期課程

湯井 恵美子 氏

■第3回研究会

日 時：2020年1月28日(火) 15:00～17:30

場 所：一般財団法人関西情報センター

議 事：長野市長沼地区(台風19号被災地)の地区防災計画の検証

一般財団法人関西情報センター 主席研究員

西田 佳弘

「テーマ」地区防災計画の継続(PDCAサイクル)

高知市下知地区の地区防災計画の取り組みについて

一般社団法人防災活動支援センター兼地区防災計画学会 幹事

山中 晶一 氏

(10)地区防災計画策定支援業務

地区防災計画の策定を進めている地区に対し、つぎの通り支援を実施した。

①草津市

草津市笠縫学区の地区防災計画策定支援として、ワークショップを3回(街歩きを含む)開催し、ワークショップ等での検討を踏まえ、地区防災計画を策定した。

②豊中市

豊中市千成地区の防災マップ改訂支援として、ワークショップを1回開催し、ワークショップ等での検討を踏まえ、防災マップを改訂した。

③芦屋市

朝日丘地区において防災計画書の見直しを行った。また、打出小槌地区では避難所マニュアル、防災計画書の見直しを行い、岩園地区においては避難所マニュアルの見直しを行った。

(11)大阪・関西万博関連業務

2025年日本国際博覧会協会によるPLL(People's Living Lab)アイデア募集に対し、つぎの2件を提案した。

①スマート防災～位置と時間を意識した情報収集と見える化～

万博会場が海上の埋め立て地という災害対策上きわめて難しい場所に決まっており、南海トラフ地震や上町断層帯地震などを想定し、多様な観点から防災計画とそれを支える情報収集および見える化の仕組みを提案した。具体的には、以下の3つの機能を持つ未来型防災まちづくりとなっている。

- ・来場の滞在や帰宅、帰国を支援し、特に災害時には災害情報の提供や非常時通信機能(大ゾーン基地局を活用)をもつスマホアプリ群と通信基盤
- ・被災時に万博関係者が正確な情報共有を行うための3Dマッピングを中心にした災害情報共有システム
- ・周辺臨海部と一体となった災害対応、救援活動を実現する万博防災計画

②万博スマートサービス(BaaS:Banpaku and Beyond as a Service)と災害時のSOS機能

万博では、協会を始め、事業者が来訪者に、あるいは来訪を考える人に、さらには来訪を考えていない人にも関心をもってもらうため、スマホを使った多様なサービスを提供する。こ

れら多様なサービスから、ユーザにとって最適なサービスが選択できる、AI を搭載した「万博スマートサービス」(コンシェルジュ機能)の仕組みと構築を提案した。また、大規模災害時に夢洲(会場)が通信面で孤立しても、来場者に不安をもたせないように、避難等に関する情報の提供を行うシステムとして大ゾーン通信とローカル交換を行う「SOS」機能を提案した。

(12) 国・自治体・企業等におけるプロジェクトの受託

① 関西 IoT イノベーション創出支援事業 (経済産業省近畿経済産業局委託事業)

関西における Connected Industries の実現を促進するため、IT・IoT 関連団体や各支援機関等との連携により、関西地域に重層的に集積するものづくり企業等と、IT・IoT 関連を中心としたサービス業等との連携・コラボレーション等による IoT ソリューションの創出を図る事業として、近畿経済産業局委託業である「関西 IoT イノベーション創出支援事業(地域中核企業ローカルイノベーション支援事業)」を受託し実施した。具体的には、「関西ものづくり IoT 推進連絡会議」に参画する IT・IoT 関連団体及びその参加企業が実施するイベント・展示会、セミナー、マッチング、連携事業等による IoT ビジネスの創出活動を強力に個別支援、ヨコ連携支援、創発活動支援等を行うことで、広く関西全域の中堅・中小企業における IoT ソリューション創出、ひいては製造業やサービス産業の生産性向上、高付加価値商品・サービスの創出を図った。

a) 情報不足を解消し実ビジネスでの能力を向上させる人材育成活動(セミナー)

Connected Industries を推進し、IoT ソリューションを創出・拡大する上で、情報銀行の運用や GAF A 規制などの社会情勢や技術動向を含む国内外の動向、サイバーセキュリティなどの情報を体系的に学べるセミナー等を開催する。上期においては主にサイバーセキュリティ関連でのリレーセミナー、地域セミナー等を企画・実施した。

■ 第 2 回サイバーセキュリティ・リレー講座(初級者向け)

～サイバーセキュリティの基礎&心得習得編～

企業でこれからサイバーセキュリティを担う担当者が、セキュリティ分野で仕事をする上でのセンスを身につけ、専門性を高めるための学習に取り組む土台をつくることを目的に、関西を代表するセキュリティ研究者によるリレー講座を実施した。

日 程：2019 年 8 月 28 日(水)～9 月 26 日(木)

場 所：ツイン 21MID タワー 20 階 8 会議室 又は 9 会議室

内 容：第 1 回/8 月 28 日(水)「フォレンジック技術」

立命館大学 情報理工学部 教授

上原 哲太郎 氏

第 2 回/9 月 3 日(火)「AI とサイバーセキュリティ」

兵庫県立大学大学院 応用情報科学研究科 特任教授 申 吉浩 氏

第 3 回/9 月 5 日(木)「暗号技術に基づくサイバーセキュリティ」

兵庫県立大学大学院 応用情報科学研究科 准教授 五十部 孝典 氏

第 4 回/9 月 10 日(火)「ネットワーク運用とそのセキュリティ対策」

和歌山大学 学術情報センター 講師

川橋 裕 氏

第 5 回/9 月 12 日(木)「情報セキュリティリスクマネジメントにおける
人材育成の考え方」

大阪大学 情報セキュリティ本部 教授

猪俣 敦夫 氏

第 6 回/9 月 17 日(火)「サイバーセキュリティマネジメント」

大阪経済大学 経営学部 准教授

金子 啓子 氏

第7回/9月24日(火)「サイバーフィジカルシステムにおける
セキュリティ」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 サイバーフィジカル
セキュリティ研究センター ソフトウェアアナリティクス
研究チーム長

住友電工-産総研サイバーセキュリティ連携研究室長 森 彰 氏

第8回/9月26日(木)「システムの脆弱性、無線LANセキュリティ」

神戸大学大学院 工学研究科 教授

森井 昌克 氏

参加者：100名(全8回受講)

■サイバーセキュリティソリューション地域別講座

～中小企業のセキュリティソリューション&脅威情報の目利き力習得編～

セキュリティベンダーや情報通信企業が提供するソリューションが、どのような脅威を想定したものであるか、費用面も含め、複数のソリューションを比較し、そのポイントを見極める目利き力の習得を目指す講座を地域別に開催した。

日 時：京都/2019年7月22日(月) 14:00～17:30

大阪/2019年7月29日(月) 14:00～17:45

神戸/2019年7月30日(火) 14:00～17:30

場 所：京都/京都経済センター 6-C 会議室

大阪/大阪商工会議所 401 会議室

神戸/神戸市産業振興センター 901 会議室

内 容：【京都】

パネルディスカッション

「最近のセキュリティ脅威及び中小企業の備え方」

<モデレーター> 立命館大学 情報理工学部 教授 上原 哲太郎 氏

<パネリスト>

・アイマトリックス株式会社

カスタマーリレーションズ・セールスエンジニア マネージャー

吉田 健太 氏

・アドソル日進株式会社

IoTシステム事業部セキュリティ・ソリューション部 マネージャー

緒方 洋敬 氏

・カゴヤ・ジャパン株式会社 ソリューションセールスグループ

マネージャー 井川 知幸 氏

・京セラコミュニケーションシステム株式会社

セキュリティ営業部 西日本セキュリティ営業課 課長 原田 洋司 氏

・情報システムコントロール協会(ISACA)大阪支部 常務理事 石井 秀明 氏

セキュリティソリューション提供企業による自社ソリューションの紹介

パネルディスカッション登壇企業4社(各15分)

総括講演 立命館大学 情報理工学部 教授

上原 哲太郎 氏

【大阪】

パネルディスカッション

「最近のセキュリティ脅威及び中小企業の備え方」

<モデレーター> 大阪大学 情報セキュリティ本部 教授 猪俣 敦夫 氏
<パネリスト>

・エムオーテックス株式会社 経営企画本部 本部長 中本 琢也 氏

・西日本電信電話株式会社 ビジネス営業本部

クラウドソリューション部セキュリティG 担当課長 谷口 貴之 氏

・日本電気株式会社 サイバーセキュリティ戦略本部

セキュリティ技術センター長 淵上 真一 氏

・株式会社日立システムズ ネットワークセキュリティサービス事業部

主幹技師 宮内 潤 氏

・富士通株式会社 サイバーセキュリティ事業戦略本部

サイバーディフェンスセンター セキュリティ技術支援部

シニアマネージャー 佳山 こうせつ 氏

・大阪商工会議所 経営情報センター経営情報担当 兼 所内情報化担当

課長 古川 佳和 氏

セキュリティソリューション提供企業による自社ソリューションの紹介

パネルディスカッション登壇企業5社(各15分)

総括講演 大阪大学 情報セキュリティ本部 教授 猪俣 敦夫 氏

【神戸】

パネルディスカッション

「最近のセキュリティ脅威及び中小企業の備え方」

<モデレーター> 神戸大学大学院 工学研究科 教授 森井 昌克 氏

<パネリスト>

・株式会社 FFRI

代表取締役社長 鶴飼 裕司 氏

・株式会社神戸デジタル・ラボ セキュリティ事業部

シニアコンサルタント 近藤 伸明 氏

・株式会社さくらケーシーエス 技術統括部 エキスパート 橋本 護 氏

・NRI セキュアテクノロジーズ株式会社 GRC デジタルプラットフォーム部

マーケティンググループ グループマネージャー 渡部 惣 氏

・日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)西日本支部

西日本支部長(富士通関西中部ネットテック株式会社) 嶋倉 文裕 氏

セキュリティソリューション提供企業による自社ソリューションの紹介

パネルディスカッション登壇企業4社(各15分)

総括講演

神戸大学大学院 工学研究科 教授 森井 昌克 氏

参加者：京都／48名、大阪／82名、神戸／54名

b) 国際フロンティア産業メッセへの出展

新規ビジネス・ソリューション創出支援事業の一環として、西日本最大規模の総合展「国際フロンティア産業メッセ 2019」へ関西ものづくり IoT 推進連絡会議 (Promoters of Industrial IoT in Kansai, PIİK) としてパビリオンを出展した。出展内容は、PIİK に参画する団体の会員企業から 13 社を公募し、パビリオン内に 13 社のブースを設置し、各社の IoT ソリューションの紹介展示と希望する企業に対して企業プレゼンテーションの実施機会を提供した。

日 時：2019 年 9 月 5 日(木)～6 日(金)

場 所：神戸国際展示場 1・2 号館

主 催：国際フロンティア産業メッセ 2019 実行委員会

＜関西ものづくり IoT 推進連絡会議パビリオン出展企業＞

アイレス電子工業株式会社、イーエルシステム株式会社、梅田電機株式会社、
さくらインターネット株式会社、シャープ株式会社、株式会社ステップワン、
ダイヤモンド電機株式会社、株式会社たけびし、株式会社日新システムズ、
パーソナルAVCテクノロジー株式会社、株式会社ハネロン、
株式会社メガトレード、一般社団法人 Ruby ビジネス推進協議会

c) 同テーマに賛同した企業や機関等が連携した自律的な研究会(イノベーション創出企画室)

PIIK 参画団体会員企業を中心として、団体の垣根を越えて複数の企業が共同で、新たな事業やコミュニティ創成に向けて検討する「作戦会議」の場を設ける。上記においては事業の枠組みを整備し、企業への参加呼びかけを行い、3 研究会がそれぞれのビジネスに関しての議論を実施した。また、新規ビジネスの検討にあたっての市場調査実施の支援を行った。

d) 人材育成セミナーの開催

関西ものづくり IoT 推進連絡会議およびその他企業のエンジニアを対象としたブロックチェーンのハンズオンセミナー(全 4 回)を開催。

■Blockchain × Tech MeetUp in OSAKA

第 1 回：2020 年 2 月 19 日(水) 16:00-17:30 「暗号資産の概要と利用体験」

第 2 回：2020 年 2 月 26 日(水) 10:00-11:30「ブロックチェーンの基本構造」

第 3 回：2020 年 3 月 4 日(水) 15:30-17:00「ブロックチェーンの分散化とは？」

第 4 回：2020 年 3 月 11 日(水) 15:30-17:00「ブロックを固めるための合意形成の手順」

【第 3 回、第 4 回は新型コロナウイルス感染予防のため開催延期】

場 所：The DECK

主 催：経済産業省近畿経済産業局、一般財団法人関西情報センター、大阪商工会議所
近畿大学「ACT プロジェクト『人づくり、モノづくり、コトづくりプロジェクト』」

講 師：近畿大学大学院 総合理工学研究科 准教授

森山 真光 氏

参加者：27 名

②VR・AR 等の先進的コンテンツを活用した取組実態及び知的財産権活用に関する調査

(経済産業省近畿経済産業局委託事業)

本調査では、BtoB を対象とした VR・AR 等の先進的コンテンツを活用した新たなサービスを展開する企業の取組実態を把握するとともに、こうしたサービスを近畿地域で創出していくために、必要な知的財産権活用や、技術・サービス開発等のポイント、ビジネスに活かしていくための留意点の整理を行った。さらに、調査で得られた情報をもとに、今後の VR・AR 等の先進的コンテンツ制作やコンテンツを活用した新たなサービス創出の可能性、技術・知的財産権上の課題の整理・分析・検討を行い、調査成果の幅広い普及啓発を行った。

調査に際しては、東京大学・廣瀬通孝教授を委員長とする有識者検討委員会を立ち上げるとともに、先進企業 24 社へのヒアリング調査を実施した。また、調査成果を VR・AR 等を活用した新サービス創出を目指す企業に対して広く普及啓発するため、「ビジネスに効果的な VR/AR/MR 活用の手引書・事例集」を発行した。本手引書・事例集では、先進的な取り組みを行うユーザー企業の活用事例及び VR・AR 等コンテンツ活用のポイントや知的財産権活用の

ポイント、有識者検討委員会委員によるコラム等を掲載した。さらに、VR・AR等をビジネスで活用したい企業向けに、ソフト・ハード両面の最新情報や活用のポイント・事例を紹介する「VR/AR/MR活用セミナー」を以下の通り開催した。

■VR/AR/MR活用セミナー

日時：2020年2月17日(月) 14:00～16:15

場所：ツイン21MIDタワー 20階8会議室

内容：基調講演

「VR研究開発のこれから」

東京大学 大学院 情報理工学系研究科 教授

バーチャルリアリティ教育研究センター 機構長

廣瀬 通孝 氏

講演

「VR/AR/MRで産業はどう変わる？～世界の先端事例より～」

株式会社 Mogura 代表取締役社長/Mogura VR News 編集長

一般社団法人 XR コンソーシアム エグゼクティブ・ディレクター 久保田 瞬 氏

「VR/AR/MRと知的財産権」

インテリクス国際特許事務所 所長・弁理士

上羽 秀敏 氏

事例発表

「MRリハビリテーションの可能性について」

株式会社テクリコ 代表取締役

杉山 崇 氏

「邸別自由設計のオリジナルプランを360度3D空間体験

～積水ハウスのVR活用事例～」

積水ハウス株式会社 IT業務部 部長

石川 英治 氏

デモ展示・体験会：株式会社テクリコ、積水ハウス株式会社

参加者：83名

③省庁業務継続計画の評価に係る調査・検討業務等（内閣府委託事業）

内閣府では、「政府業務継続計画(首都直下地震対策)」を踏まえ、「中央省庁業務継続ガイドライン第2版」を策定するとともに、省庁業務継続計画の評価の項目及び手法を策定し、それを基に各府省等による自己評価及び有識者による評価を実施している。本業務は、この自己評価内容の見直し、自己評価結果の取りまとめ、有識者ヒアリングの資料作成等を行うとともに、有識者会議の運営を行うものである。9月26日に第1回有識者会議、12月5日に第2回有識者会議、2020年2月27日に第3回有識者会議を開催するとともに、あわせて全省庁に対し有識者によるヒアリングを実施し、各省庁のBCPやIT-BCPの課題を取りまとめた。

3. 情報ネットワーク関連事業

(1) インターネットサービス事業

健康保険組合・医療機関向けのホームページ運用支援サービスは、45組合(医療機関含む)について定期更新等を安定運用するとともに、WEB医療費通知サービスについても45組合で運用した。また、サーバお預かりサービスを6組合で運用した。

(2)情報セキュリティシステム構築支援事業（セキュアサポートサービス）

パスワード共有サービス、ファイル転送サービスを継続して提供した。

(3)ネットワーク基盤整備支援事業

大阪府から KIIS データセンターへサーバの移転を行い、大阪府向け公募公債入札支援サービスを継続して提供した。

(4)システム開発受託事業

団体向けの顧客管理システムの提供サービスについて、安定的に運用した。また、システムの一部改修業務を受託した。

(5)公共施設情報システムサービス

大阪府下 20 自治体に提供しているスポーツ施設予約システム(OPAS)、阪神間の 6 自治体に提供している文化・スポーツ施設予約システム(ESPAL)とともに、安定したサービス提供を継続して行った。2020年2月18日に、OPASの施設案内ページのリニューアルを行った。

※ OPAS (Osaka Public Access Service) スポーツ施設情報システム ASP サービス

ESPAL (the Establishment System of Portal And Lead) ASP 型施設予約システム

4. 社会システム支援事業

<社会保健・福祉サービスソリューション>

(1)健康保険組合システムの開発・運用事業

業務システム 90 ユーザの運用に関し、システムの安全・正常稼働を実施した。またマイナナンバー制度に基づくサーバ間連携機能(中間サーバと業務システムサーバを直接接続するデータ連携機能)の運用支援を行った。さらにクラウド化の進展を見据えた新システム(HiPROS)への移行を完了した。なお、健保共同システムセンター協議会総会(6月6日)に参加し、今年度事業等について協議した。また、10月25日に開催された健保共同システムセンター協議会総会にて上記の状況報告と今後の事業計画に関する討議を行い、12月18日には利用組合連絡会(ユーザー会)を開催した。なお2020年2月20日に健保共同システムセンター協議会総会に参加し、今年度の状況報告と次年度以降の事業体制等に関する討議を行った。

(2)健康管理ソリューションの開発・提供事業

健康管理ソリューションを構成するシステム(健康管理指導支援システム、生活習慣病リスクマーカーシステム、総合健康マネジメントシステム)の管理を実施するとともに利用ユーザ(延べ310ユーザ)に対する安定運用を実施した。また、国の成長戦略に基づく健保組合の「データヘルス計画」支援等を目的とした「総合健康マネジメントシステム」の機能拡充と営業強化(協力会社への支援等)を実施した。

5. 情報化社会基盤整備事業

(1)プライバシーマークの審査、認定

個人情報保護の推進を目的とし、プライバシーマーク指定審査機関として、平成18年度から

開始したプライバシーマーク付与に係る申請の受付・審査と付与適格決定可否等の業務を継続して実施した。審査件数については次の通りで、前年度と比べて微減している。(対象は、近畿地区2府4県と福井県に本社のある事業者)

2019年度の実施状況(4~3月末):
受付 823件(新規107件・更新716件)
審査 821件(新規105件・更新716件)
認定 798件(新規95件・更新703件)

6. 広報・交流活動事業

(1) 機関誌「KIIS」の刊行

■機関紙159号(2019年8月発行)

①2018年度実施事業からの報告

- ・「KIISサイバーセキュリティ研究会」2018年度活動報告
事業推進グループ マネジャー・首席研究員 石橋 裕基
- ・「スマートインフラセンサ利用研究会」
センサコードによるインフラ維持管理プラットフォーム構築を目指して
事業推進グループ マネジャー 澤田 雅彦
- ・「AI活用研究会」2018年度活動報告
事業推進グループ マネジャー・首席研究員 石橋 裕基
- ・「破壊的イノベーションがもたらすデジタル社会研究会」
事業推進グループ 研究員 長尾 卓範
- ・「ビジネス・イノベーションセミナー」
事業推進グループ 研究員 長尾 卓範
- ・「e-Kansai レポート2019」
～関西地域における新たなビジネス創出プラットフォーム実現に向けて～
事業推進グループ 研究員 梶谷 良徳
- ・「災害情報共有システムについて」
新事業開発グループ マネジャー 平山 健次郎
- ・「地域コミュニティが行う地区防災計画のすすめ」
新事業開発グループ リーダー・主任研究員 坊農 豊彦

配布先: 賛助会員 等

■機関紙160号(2020年1月発行)

①特集テーマ

「脳科学の最前線」～ビジネスへの応用～

株式会社NTTデータ経営研究所 エグゼクティブオフィサー 萩原 一平 氏

②インフォテック2019実施報告

ヒューマン×デジタル・インタラクションが創る新たな未来

～「豊かな生活」を実現するデジタルサービスの創出に向けて～

③賛助会員企業のご紹介

エヌ・ティ・ティ・データ先端技術、株式会社神戸デジタル・ラボ、一般社団法人
コンピュータソフトウェア協会

配布先：賛助会員 等

(2) KIIS フォーラム (事業成果報告会)

日 時：2019年8月1日(木) 13:30～17:00

場 所：ツイン21M I Dタワー20F 「8+9 会議室」

内 容：第一部：特別講演

「2025年の未来ビジネスと国際博覧会(万博)～ NEXT 関西 ～」

経済産業省 近畿経済産業局 総務企画部次長

2025NEXT 関西企画室長 石原 康行 氏

第二部：2018年度事業報告と今後の取り組みについて

「サイバーセキュリティ研究会」～サプライチェーンを含めた、関西地域
全体でのセキュリティレベル向上～

事業推進グループ マネジャー・主席研究員 石橋 裕基

「スマートインフラセンサ利用研究会」～センサ/IoTによる土木構造物
の維持管理プラットフォームの構築に向けて～

事業推進グループ マネジャー 澤田 雅彦

「A I活用研究会」

事業推進グループ マネジャー・主席研究員 石橋 裕基

「破壊的イノベーションがもたらすデジタル社会研究会」

事業推進グループ 研究員 長尾 卓範

「ビジネス・イノベーションセミナー」

事業推進グループ 研究員 長尾 卓範

「e-Kansai レポート2019」～関西地域における新たなビジネス創出
プラットフォーム実現に向けて～

事業推進グループ 研究員 梶谷 良徳

「災害情報共有システムについて/共助による地域防災力向上を目指した
地区防災計画」

新事業開発グループ マネジャー 平山 健次郎

新事業開発グループ リーダー・主任研究員 坊農 豊彦

第三部：招待講演

「大阪・関西万博のこれまでの取り組みと現状、今後について」

一般社団法人2025年日本国際博覧会協会

総務局 総務部 事業調整課長 森 栄子 氏

(3) KIIS 設立 50 周年記念講演会及び新春交歓会

日 時：2020年1月16日(木) 15:30～19:30

場 所：ヴィアール大阪

主 催：一般財団法人関西情報センター

一般社団法人情報サービス産業協会 関西地区会

内 容：①設立50周年記念講演会

「大阪大学の産学連携への挑戦 –産業界と共に創る新たなステージ–」

国立大学法人大阪大学 総長

西尾 章治郎 氏

「KIIS 設立当初(1970 年)からの変遷」

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 課長 菊川 人吾 氏

「Society 5.0 の実現に向けて～情報銀行、キャッシュレスなど～」

総務省 情報流通行政局 情報通信政策課 調査官 飯倉 主税 氏

②新春交歓会

来賓ご挨拶 経済産業省 近畿経済産業局長 米村 猛 氏

総務省 近畿総合通信局長 佐々木 祐二 氏

参加者：237 名

(4) KIIS メールマガジン、ホームページ

当財団主催のイベントやセミナー、関連団体の情報をホームページやメールマガジンにて定期・不定期に配信するとともに、facebook においてもイベント情報を配信した。

以上

(附属明細書について)

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないため作成を省略する。

